

制服のリユース・リサイクルを通して人と人をつなぐ。浦添市沢岬のパートの一角。学ランやブレザー、セーラー服、白シャツにネクタイなどが所狭しと並ぶ中、素敵な笑顔で出迎えてくれる女性がいます。「学生服のリユース・リサイクルショップゆいまある」の経営者、與那城寿恵子さん(38)です。

お店はその名の通り、不要となった学生服を買い取り、新品同様にきれいに仕立て必要な人に安く提供するリユース・リサイクルの取り組みを展開しています。

12年前に結婚してから、ずっと専業主婦だった與那城さんは、2児(8歳、4歳)の母であり、子どもたちが日々成長していく過程で、子育てにはお金がかかることを痛感。周りの友人からも中学生や高校生になればもっとお金がかかるという中で、仕事に就くことを考えていました。そんなある時、テレビで制服のリサイクルの取り組みを目にし、「沖縄に制服のリユース・リサイクルのお店があったら、みんな助かるのではないか」と思った與那城さんは、旦那さんに相談し、子どもたちの応援も受け、お店を開業することを決意します。

決意から程なくして取り組みを開始しますが、最初は友人から譲ってもらった5、6着からのスタート。「このままでは制服を必要としている人の声に応えられない」と思った與那城さんは、16年3月にブログを立ち上げ、まずは買い取りに

力を入れることにしました。すると、すぐに反応がありました。

「高いお金を出して買った制服だし、子どもが着ていたものだからなかなか捨てられなかった。誰かにあげるタイミングを逃し、タンスの肥やしになっていたのに、この制服を必要としている人がいるなら使ってください」というお客さんの声に與那城さんは手ごたえを得ます。子育て世代の口コミなどもあり、徐々に制服の在庫数も増え、17年3月にお店を構える格的に始動します。

お店をオープンしてからというもの、来店する人、問い合わせなどが絶えず、県立高校の合格発表日には一日に200人のお客さんが来店すると與那城さんは言います。「新品は買ったけど予備の制服として買い求める人もたくさんいますし、お店に来る人は決して特別な人たちではありません。制服を必要とする人がいて、制服を手にして満面の笑顔で帰っていく姿や、ありがとうの一言に、お店をやった良かったなあと感じます」と與那城さんは笑顔を見せます。

開業してから一年、在庫はまだまだ足りず、要望に応えられないことも数多くあると言います。「最近では浦添市や那覇市に限らず、北部の中学校の制服はありますか」という問い合わせもあります。沖縄県全域をカバーできるように、この取り組みを多くの人に知ってほしいと思います。必要とする人に制服を届けたら



必要とする人に
届けたい

ROAD

輝く人たち No.20



PROFILE
與那城 寿恵子(38)

「学生服のリユース・リサイクルショップゆいまある」を経営。「良いことはする。悪いことはしない」を子どもたちとの合言葉に日々子育て奮闘。人と関わるのが大好きで、制服のリユース・リサイクルを通して人と人をつないでいる。

「誰かの助けになればという思いで始めた取り組みですが、何よりも私が皆さんの思いに助けられています。みんな助け合いながら、一人でも多くの方が幸せになって欲しい。それが、ゆいまあるであり、私が願うことです」。

そう話す與那城さんは、これからも制服のリユース・リサイクルを通して、人と人をつなぎ、一人一人の思いをつないで笑顔の輪を広げていきます。



学生服のリユース・リサイクル ゆいまある

【営業時間】
 ■月・火・水・金曜日 午前11時～午後5時
 ■土曜日 午後1時～午後5時
 ※時期によって不定休となる場合があります。

ブログで随時情報発信中!

住所/浦添市沢岬1-7-10 1階
 ☎080-2790-4982

お問い合わせ